様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １１ 日現在

機関番号：３２７０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１２１１６

研究課題名（和文）育児不安トリアージ尺度の開発－妊娠初期妊婦を対象にした育児不安予備軍の抽出－

研究課題名（英文）The development of a triage scale for parenting anxiety -Identifying women in early pregnancy at risk for developing parenting anxiety-

研究代表者
坂梨　薫（SAKANASSHI, KAORU）

関東学院大学・看護学部・教授

研究者番号：６０２９００４５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：妊娠期の現状と出産後の育児の実態を知るために、妊娠期の調査対象者に出産後の調査をインターネットで行った。分析対象は603名であった。分析は、妊娠期および産後の変数は検索的因子分析を行い、産後の因子得点を妊娠期の因子得点の平均値の上下で比較した。
結果、出産後の「育児の充実感」や「育児の自信」と有意差がみられたのは、妊娠期の「母親になる自信」「幸福感」「パートナーとの関係」であった。妊娠期に母親になることへの不安や妊娠自体に幸福感を感じていない妊婦、また予定外妊娠の妊婦についても手厚い支援の必要性が示唆された。加えて、パートナーの協力や精神的支援状況の情報も必要であることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまで出産後の状況で育児不安を測定する尺度は開発されていたが、本研究は、出産後の育児不安リスクを妊娠期の段階から妊婦の社会的背景、妊娠に至る過程、親性などを査定し明らかにすることを目的とした。
同一対象の妊娠期から出産後の母親603名の分析結果から、「育児の充実感」や「育児の自信」に影響を及ぼしていたのは、妊娠期の「母親になる自信」「幸福感」「パートナーとの関係」であることが明らかになった。
妊婦健診時や助産師外来において、各々の因子項目の確認や関連する妊婦の背景の情報が明らかになったことで、育児不安に対する切れ目のない支援につなげていくことへの一助として活用できると考える。

研究成果の概要（英文）：To understand the actual conditions during pregnancy and the realities of parenting after childbirth, an online postpartum survey was conducted among those surveyed during pregnancy. Data from 603 subjects were analyzed. Exploratory factor analysis was conducted with pregnancy and postpartum variables, and the postpartum factor scores were compared based on pregnancy factor scores (above or equal to vs. below the mean score). The results showed significant intergroup differences for “sense of fulfillment in parenting” and “confidence in parenting” after childbirth based on “confidence in becoming a mother”, “sense of happiness” and “relationship with one’s partner” during pregnancy.
The need for extensive support was suggested for pregnant women who are anxious about becoming mothers during pregnancy, those who do not feel a sense of happiness about being pregnant, and for pregnant women facing unplanned pregnancies.

研究分野：母性看護学

キーワード：妊娠期　育児不安　子育て支援　切れ目のない支援　トリアージ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（1）産後うつによる自殺が妊産婦死亡を上回る状況が報じられ、病産院を退院した母親が再び入院し、休養したり授乳指導を受けたりできる「産後ケアセンター」の整備が、政府の少子化危機突破のための緊急対策が平成 25 年 6 月に盛り込まれ、助産院や産婦人科医院において、孤立しがちな出産直後の母親を癒やし、新生児の世話も学べる産後ケアに力を入れる施設が増加していた。

（2）但し、行政が行っている産後ケア事業の子育て支援の中心は少子化対策が背景にあり、地域の活性化や労働力の確保などを目指すもので、少子化に伴う子育て力の低下を問題視し、その改善を図ろうとするものである。よって、支援を受けることができるのは、一部の何らかの問題を抱えた母親に限られており、一般にリスクの高い家庭ほど閉鎖的で介入し繋がっていくことが難しい状況にあった。

（3）このような中、妊娠期から切れ目のない支援を one stop で継続していくフィンランドのネウボラのようなシステムの取り組みは普及していない。今ある資源を活用しつつ継続的な子育て支援を行っていくためには、縦割りから縦断的な組織的支援を構築していく必要性が求められていた。

２．研究の目的

本研究の目的は、妊娠初期の段階から妊婦の社会的背景、妊娠に至る過程、親性などを査定し出産後の育児リスク度を測定する「育児不安トリアージ尺度」を開発し、産後の育児不安予備軍への支援に寄与することである。

３．研究の方法

（1）妊婦の背景と妊娠中の状況の関連を知るために、2018 年 2 月に、妊娠 15 週から 36 週までの妊婦に 1854 名に自作質問紙を用いたインターネット調査を行った。調査内容は、対象者の背景、妊娠に対する変数 27 項目（妊娠への受け止め、サポート状況、母親になる思いなど 5 件法）である。分析については、妊娠に対する変数は検索的因子分析を行い、関連する背景の因子得点を比較した。

（2）妊娠期に調査した対象の産後の育児状況を知るために、2018 年 9 月に、2018 年に調査した対象者に自作質問紙を用いたインターネット調査を行った。両方ともに回答した分析対象数は 603 名であった。分析は、妊娠期および産後の変数は検索的因子分析を行い、産後の因子得点を妊娠期の因子得点の平均値以上・未満で比較した。また、妊娠期と出産後の因子関係について相関係数を求めた。

統計解析には（1）（2）共に SPSS Ver.25 を使用し、有意水準は 5%未満とした。

尚、本研究は所属大学の「人に関する研究倫理審査委員会」の承認（H2017-4-4）を得て実施した。

４．研究成果

（1）について

回答者は 1,854 名（初産婦 927 名、経産婦 927 名）ですべて有効回答であった。

平均年齢は 30.5 歳、妊娠週数は 22 週未満 2.0%、22～28 週未満 34.4%、28 週以降 63.5%であり、就業ありは 43.0%、核家族 89.5%であった。妊娠の経緯は、①望んで自然 50.3%、②計画的 22.9%、③不妊治療後 13.9%、④予定外 12.9%であった。妊婦の背景で因子得点と関連があったのは妊娠経緯と性格傾向であった。

①　妊娠に対する変数の因子分析結果

天井効果の 3 項目と因子得点 3.0 以下の 1 項目を除いた 23 項目を分析した結果、「自信」（α

＝.762）「幸福感」（α＝.762）「パートナー関係」（α＝.853）「人間関係」（α＝.659）「妊娠経過」（α＝.626）の 5 因子が抽出された（全体の Cronbach ’（α＝.809、累積寄与率 45.6%）。

② 妊娠期の各因子の因子得点と妊娠経緯の関連

妊娠の経緯 4 項目の因子得点を一元配置分散分析でみた結果、「自信」「幸福感」「パートナー関係」及び「人間関係」の 4 因子共に予定外妊娠群が他の経緯と比べて有意に低かった（P＜0.01）。「幸福感」は不妊治療後の妊娠群の得点が高かったが、「妊娠経過」は他の経緯より有意に低かった（P＜0.01）。

③ 妊娠期の各因子の因子得点と性格傾向の関連

自身の性格傾向について、「明朗」「依存」「感情」の 3 因子が抽出された。

「明朗」高得点妊婦は「自信」「幸福感」「パートナー関係」「人間関係」は有意に高く、「妊娠経過」への不安は低かった（P＜0.01）。「依存」の高得点妊婦は「自信」「パートナー関係」は有意に高く「妊娠経過」の不安は有意に低かった（P＜0.01）。「感情」得点の高い妊婦は「自信」（P＜0.05）、「パートナー関係」「人間関係」が有意に高かった（P＜0.01）。

（2）について

妊娠期に回答と同一の母親は 603 名（初産婦 306 名、経産婦 297 名）で、母親の背景をみると、平均年齢 31.1 歳、里帰り分娩 35.2%、経腟分娩 81.8%、出生時の月齢は 5 ヶ月未満 59.5%、5 ヶ月～6 ヶ月 40.5%、児の栄養法母乳のみ 53.7%、実家にいて手伝いあり 13.1%、自宅にいて手伝いあり 40.5%であった。

① 妊娠期の認識の探索的因子分析の結果（表 1）

天井効果 3 項目、因子負荷量 3.5 未満 3 項目を除く 21 項目を分析した。

天井効果の 3 項目と因子得点 3.0 以下の 1 項目を除いた 23 項目を分析した結果、「パートナー関係」（α＝.853）「母親になる自信」（α＝.792）「幸福感」（α＝.741）「人間関係」（α＝.686）「妊娠経過」（α＝.647）の 5 因子が抽出された（全体の Cronbach ’（α＝.802、累積寄与率 60.86%）。

② 出産後の育児に対する認識の探索的因子分析結果（表 2）

天井効果 3 項目、因子負荷量 3.5 未満 4 項目を除く 21 項目を分析した。

天井効果の 3 項目と因子得点 3.0 以下の 1 項目を除いた 23 項目を分析した結果、「育児の充実感」（α＝.801）「育児の自信」（α＝.821）「協力者」（α＝.853）「出産後の身体変化」（α＝.661）「イメージ通り」（α＝.714）の 5 因子が抽出された（全体の Cronbach ’（α＝.873、累積寄与率 58.64%）。

③ 妊娠期の因子得点平均値上下と産後の因子得点の比較（表 3）

出産後の因子 1「育児の充実感」は「パートナー関係」「幸福感」（P＜0.01）「母親になる自信」（P＜0.05）と有意な関連がみられた。因子 2 の「育児の自信」は「パートナー関係」（P＜0.05）「母親になる自信」「幸福感」「人間関係」「妊娠経過」（P＜0.01）とすべての出産後の因子に有意差がみられた。第 3 因子「協力者」は妊娠期の「パートナー関係」「母親になる自信」「人間関係」（P＜0.01）の 3 因子と有意差があった。第 4 因子「出産後の身体変化」は「パートナー関係」「人間関係」（P＜0.01）の 2 因子に有意差がみられた。第 5 因子「イメージ通り」は「母親になる自信」「幸福感」「人間関係」（P＜0.01）の 3 因子に有意差がみられた。

表1　妊娠期の因子分析

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
因子1：パートナー関係（α＝0.853）					
ﾊﾟｰﾄﾅｰは体調をよく気遣ってくれる	0.838	-0.076	0.412	0.299	-0.028
ﾊﾟｰﾄﾅｰは妊娠した私に愛情と関心を示してくれる	0.815	-0.069	0.482	0.339	0.065
ﾊﾟｰﾄﾅｰは悩みを聞いてくれる	0.76	0.014	0.404	0.31	0.088
ﾊﾟｰﾄﾅｰは家事などの分担に協力的である	0.678	0.011	0.295	0.255	-0.01
ﾊﾟｰﾄﾅｰとどう育てるか話し合っている	0.611	-0.057	0.554	0.259	0.037
因子2：母親になる自信（α＝0.792）					
育児への漠然とした不安がある（逆）	0.065	0.756	0.077	0.06	0.231
母になる不安がある（逆）	0.005	0.719	0.046	0.062	0.122
育児への心配・不安を想像する（逆）	-0.029	0.637	-0.03	-0.046	0.311
お産が不安である（逆）	-0.008	0.625	0.009	0.009	0.35
因子３：幸福感（α＝0.741）					
出産後を想像すると楽しい	0.338	0.201	0.744	0.4	-0.005
どう育児するか館上げると楽しい	0.399	0.078	0.704	0.45	-0.097
出産を待つ生活は楽しい	0.363	0.034	0.644	0.318	-0.031
妊婦への関心が増した	0.222	-0.424	0.59	0.308	0.098
育児の情報収集をしている」	0.316	-0.404	0.525	0.232	0.012
妊娠した時戸惑った（逆）	0.262	0.219	0.39	0.231	-0.093
因子4：人間関係（α＝0.686）					
私は両親に愛され育った	0.248	-0.02	0.29	0.69	0.036
妊娠して親への感謝が芽生えた	0.183	-0.151	0.39	0.658	-0.135
出産後の手伝ってくれる人が決まっている	0.281	0.104	0.353	0.56	-0.086
育児について相談できる人が身近にいる	0.328	0.149	0.338	0.507	-0.033
因子5：妊娠経過（α＝0.647）					
健康な赤ちゃんが生まれるか心配（逆）	0.038	0.415	0.006	-0.053	0.723
妊娠経過が順調か不安である（逆）	-0.036	0.332	-0.178	-0.101	0.538
固有値	5.116	3.35	1.781	1.357	1.176
寄与率（%）	24.363	15.951	8.483	6.464	5.601
累積寄与率（%）	24.363	40.314	48.787	55.261	60.862

因子抽出法: 最尤法　　回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

表2　出産後の因子分析

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
因子1：育児の充実感（α＝0.801）					
育児の生活は楽しい	0.705	0.267	0.27	0.282	0.256
子供は生活に充実もたらす	0.704	0.209	0.415	0.219	0.158
母としての自分に満足している	0.653	0.443	0.39	0.342	0.199
親として必要とされる実感がうれしい	0.634	0.175	0.284	0.136	0.103
ゆとりをもって育児をしている	0.59	0.539	0.511	0.471	0.35
子供が煩わしい（逆）	0.585	0.369	0.415	0.344	0.382
育児することで人間として成長している	0.502	0.114	0.323	0.069	-0.056
因子2：育児の自信（α0.821）					
育児に自信が持てない（逆）	0.364	0.801	0.42	0.397	0.353
親として自信が持てない（逆）	0.523	0.785	0.546	0.461	0.414
育児につまずくと自分を責めてしまう（逆）	0.262	0.721	0.435	0.392	0.349
周りの母親と比較してしまう（逆）	0.201	0.646	0.271	0.325	0.385
順調に育っているか不安になる（逆）	0.124	0.54	0.297	0.325	0.195
因子3：協力者（α＝0.682）					
周りの人は育児の大変さわかってくれない（逆）	0.366	0.402	0.682	0.41	0.326
家族は理解してくれない（逆）	0.422	0.365	0.677	0.388	0.215
育児中の自分は孤独である（逆）	0.388	0.467	0.663	0.403	0.339
同世代母親との交流ない（逆）	0.186	0.206	0.375	0.197	0.087
因子4：出産後の身体変化（α＝0.661）					
出産後疲労が蓄積している」（逆）	0.267	0.465	0.473	0.906	0.372
疲労回復のための睡眠はとれている	0.327	0.279	0.343	0.523	0.206
身体の調子が不良である（逆）	0.189	0.346	0.298	0.515	0.298
因子5：育児のイメージ（α＝0.714）					
育児がこんなに手がかかると思わなかった（逆）	0.224	0.364	0.304	0.341	0.791
子育てのイメージと現実は違った（逆）	0.164	0.341	0.211	0.303	0.703
固有値	6.263	2.262	1.344	1.33	1.116
寄与率（%）	29.823	10.773	6.399	6.331	5.316
累積寄与率（%）	29.823	40.596	46.996	53.327	58.643

因子抽出法: 最尤法　　回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

表3　出産後の因子得点と妊娠期の因子得点平均値以上・未満の関係

妊娠経緯	出産後因子	第1因子 育児の充実感		第2因子 育児の自信		第3因子 協力者		第4因子 出産後の身体変化		第5因子 イメージ通り	
妊娠期因子	平均値±	26.66±4.339		14.03±4.067		13.21±3.311		8.32±2.626		5.35±2.052	
因子1 パートナー関係	以上　325(53.9)	3.95±0.60	**	3.88±0.62	*	4.02±0.54	**	3.95±0.58	**	3.80±0.57	
	未満　278(46.1)	3.65±0.61		3.75±0.61		3.52±0.60		3.60±0.62		3.81±0.64	
因子2 親になる自信	以上　298(47.9)	2.88±0.86	*	3.14±0.85	**	2.89±0.84	**	2.82±0.83		3.02±0.78	**
	未満　314(52.1)	2.72±0.75		3.07±0.79		2.69±0.76		2.78±0.79		2.71±0.81	
因子3 幸福感	以上　345(57.2)	3.43±0.84	**	3.47±0.77	**	3.44±0.81	**	3.46±0.81	**	3.23±0.85	**
	未満　258(42.8)	3.15±0.79		3.14±0.85		3.11±0.81		3.06±0.80		3.02±0.78	
因子4 人間関係	以上　361(59.9)	2.82±0.90		2.92±0.86	**	2.83±0.88		2.82±0.90		2.91±0.88	**
	未満　242(40.1)	2.72±0.84		2.64±0.87		2.69±0.87		2.70±0.84		2.71±0.88	
因子5 妊娠経過	以上　192(31.8)	2.69±1.04		2.79±1.03	**	2.66±1.07		2.64±1.06		2.74±0.92	
	未満　411(68.2)	2.65±1.00		2.57±1.01		2.69±0.97		2.72±0.98		2.64±1.07	

Mean±SD　Mann-Whitney U検定
*：p＜0.05　　**：p＜0.01

④　妊娠期と出産後の因子得点の相関関係（表 4）

妊娠期と出産後の因子得点の関連を見るために相関関係を探索した。『パートナー関係』は出産後の「育児の充実感」「協力者」と弱い相関が認められた。『母親になる自信』は出産後の「育児の自信」とやや相関が認められ、「協力者」「出産後の身体変化」と弱い相関があった。『幸福感』は「育児の充実感」とやや相関があり、「協力者」と弱い相関があった。『人間関係』は「育児の充実感」「協力者」と弱い相関がみられた。『妊娠経過』は「育児の自信」と弱い相関がみられた。

表４　妊娠期と出産後の各因子得点平均値の関係

各因子	第1因子 育児の充実感		第2因子 育児の自信		第3因子 協力者		第4因子 出産後の身体変化		第5因子 イメージ通り	
因子1：パートナー関係	0.245	**	0.123	**	0.233	**	0.066		-0.025	
因子2：母親になる自信	0.125	**	0.404	**	0.274	**	0.206	**	0.114	**
因子3：幸福感	0.456	**	0.188	**	0.267	**	0.141	**	-0.01	
因子4：人間関係	0.307	**	0.073		0.217	**	0.094	*	-0.022	
因子5：妊娠経過	-0.016		0.248	**	0.121	**	0.141	**	0.045	

Spearman's rank correlation coefficient
**：P<0.01　　*：P<0.05

以上の結果から、出産後の「育児の充実感」や「育児の自信」と有意差がみられたのは、妊娠期の「母親になる自信」「幸福感」「パートナーとの関係」であった。

（1）（2）の結果から

予定外の妊娠をした妊婦に対しては、母親になるための心理的準備や周りの人々との調整を支援すること、不妊治療後に妊娠に至った妊婦については、妊娠経過や胎児の健康状態に不安があったことから、妊娠経過や胎児の成長に関する情報提供を行い不安軽減に努めることの必要性が示唆された。また、妊娠期の認識は妊婦の性格傾向で異なることが明らかになった。特に「明朗」高得点妊婦は妊娠期に対して好認識であったため、それとは逆の性格傾向の妊婦に対する意識的支援が必要になると考えられた。

妊娠期に母親になることへの不安や妊娠自体に幸福感を感じていない予定外妊娠の妊婦については妊娠期から手厚い支援の必要性が示唆された。また、パートナーの協力や精神的支援の状況の情報も必要であることが示された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 坂梨　薫	４．巻 19-2
２．論文標題 子育て支援に関する研究－日本型ドロップインセンターモデルの設計－	５．発行年 2017年
３．雑誌名 地域ケアリング	６．最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 坂梨薫、勝川由美、水野祥子、沢田真喜子
２．発表標題 妊娠に至る経緯と妊婦の妊娠状況の認識との関連
３．学会等名 日本助産学会第33回学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sakanashi K, Kastukawa Y, Mizuno S, Sawada M
２．発表標題 Challenges Associated with Postpartum Care Services in Japan
３．学会等名 31th International Confederation of Midwives（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Sakanashi K, Katsukawa Y, Mizuno S, Sawada M
２．発表標題 The relationship between perceptions of pregnancy and personality
３．学会等名 23th East Asian Forum of Nursing Scholars（国際学会）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	勝川　由美 (Katsukawa Yumi) (20438146)	関東学院大学・看護学部・准教授 (32704)	
研究分担者	水野　祥子 (Mizuno Shoko) (60728179)	関東学院大学・看護学部・講師 (32704)	
研究分担者	沢田　真喜子 (Sawada Makiko) (80363555)	日本女子体育大学・体育学部・講師 (32671)	